

ネクスト・ニッポン・オープンの運用状況

ネクスト・ニッポン・オープン
追加型投信／国内／株式

2017年10月31日

- ◆ 当ファンドでは、為替市場での円安や米ドル高を想定した積極的なポートフォリオで運用を行っています。2017年9月中旬以降、円安の進行や国内株式市場の上昇を追い風に、当ファンドの基準価額は上昇基調にあります。
- ◆ 当レポートでは、為替市場の動向や当ファンドの運用状況などをご案内いたします。

1. 円安局面を想定した運用

当ファンドでは、為替市場での円安や米ドル高が進行するものと想定し、為替感応度の高い銘柄に注目してきました。具体的には、東海カーボンなどの海外ビジネスでの成長が期待される銘柄を選定し、ウェイト付けを行いました。

2. 円安進行が当ファンドに追い風

為替市場の動向を振り返りますと、米ドルは、2017年7月中旬以降、北朝鮮情勢の悪化や米トランプ政権に対する懸念などを背景に、対円で米ドル安が進行しました。しかし9月中旬以降は、北朝鮮情勢への懸念が後退したほか、米連邦債務上限の引き上げと暫定予算が議会で可決され、市場に安心感が広がったことから対円で米ドル高に転じました。一方、ユーロは欧州経済の回復期待に加え、金融緩和政策の縮小観測などを背景に、対円で強含みとなりました。

米ドルとユーロが共に対円で強含みで推移したことが、当ファンドにとって追い風になったと言えます。

3. 足元のパフォーマンス動向

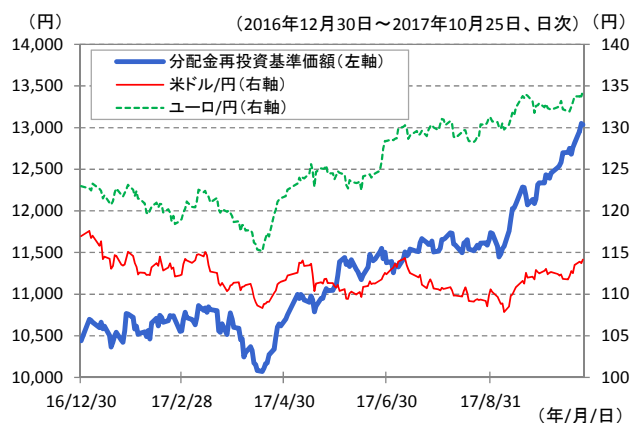
円高米ドル安局面(7月12日～9月8日)においては、TOPIX(東証株価指数、配当込)が2.0%下落したのに対し、当ファンドは0.6%上昇しました。また、円安米ドル高局面(9月11日～10月25日)においては、TOPIXが10.7%上昇したのに対し、当ファンドは12.6%上昇とTOPIXを上回りました。

個別銘柄では、世界的な景気拡大を背景に黒鉛電極の値上げ等による収益拡大が期待できる東海カーボンや、データセンターの投資拡大や自動車の電装化の動きを受けて業績拡大が期待できる古河電気工業などが基準価額にプラスに寄与しました。

日米の金融政策の違いなどから、しばらくは円安局面が続くと想定し、当ファンドでは、海外ビジネスの成長性に着目した銘柄選定を継続し、ファンドのパフォーマンス向上に努めてまいります。

※本資料における銘柄情報は、情報提供を目的とするものであり、個別銘柄への投資を推奨するものではありません。

分配金再投資基準価額と為替市場の推移



※分配金再投資基準価額とは、設定来の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものととして計算した基準価額です。

(出所) Bloombergデータより岡三アセットマネジメント作成

基準価額に寄与した上位10銘柄

(計測期間: 2017年7月3日～10月25日)

《プラス寄与した銘柄》

順位	銘柄名
1	東海カーボン
2	古河電気工業
3	安川電機
4	SMC
5	SUMCO
6	東映アニメーション
7	リクルートホールディングス
8	スズキ
9	三浦工業
10	住友重機械工業

《マイナス寄与した銘柄》

順位	銘柄名
1	エボラブルアジア
2	アルプス電気
3	日本エマージェンシーアシスタンス
4	野村ホールディングス
5	日産自動車
6	ハピネット
7	宝ホールディングス
8	フジクラ
9	島津製作所
10	テクノロイゾン・ホールディングス

※上記は、計測期間において当ファンドの基準価額に寄与した上位銘柄を寄与額順に掲載しています。

※組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する実質比率です。

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「ネクスト・ニッポン・オープン」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

運用状況

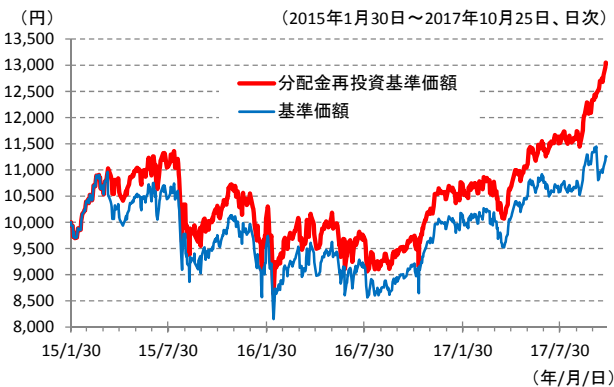
(作成基準日：2017年10月25日)

■ ファンドの状況

基準価額	11,252円
純資産総額	1,556,473,444円
マザーファンド組入比率	96.1%
実質株式組入比率	94.2%
組入銘柄数	60銘柄

※基準価額は1万口当たりです。

■ 設定来の基準価額の推移



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
 ※設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本です。
 ※分配金再投資基準価額とは、設定来の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。
 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

■ 組入上位10業種

順位	業種名	構成比
1	電気機器	18.5%
2	機械	13.7%
3	輸送用機器	9.8%
4	情報・通信業	8.0%
5	化学	6.7%
6	卸売業	3.8%
7	サービス業	3.7%
8	小売業	3.6%
9	保険業	3.5%
10	銀行業	3.4%

※構成比は当ファンドの純資産総額に対する実質比率です。

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	構成比
1	スズキ	4.3%
2	SMC	4.2%
3	三浦工業	3.9%
4	リクルートホールディングス	3.7%
5	ソフトバンクグループ	3.6%
6	東京海上ホールディングス	3.5%
7	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.4%
8	デンソー	3.4%
9	ニプロ	2.9%
10	SUMCO	2.9%

※構成比は当ファンドの純資産総額に対する実質比率です。

ネクスト・ニッポン・オープン ファンドの特色

- マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主として、わが国の金融商品取引所上場(上場予定を含みます。)株式のうち、為替の相対的な円安や米ドル高の環境下において成長が期待できる企業の株式に実質的に投資を行い、投資信託財産の成長を目指して運用を行います。
- 投資候補銘柄の選定にあたっては、輸出および海外売上等の海外寄与度の高さ、海外進出企業の国内回帰に伴う需要の創出、訪日外国人の増加や外国人の購買力向上等のインバウンド※効果等に着目します。
- ポートフォリオの構築にあたっては、定量分析、定性分析、バリュエーション、業種別比率等を勘案して行います。
- 株式の実質組入比率は高位を保つことを基本とします。
- 株式以外の資産の実質投資割合は、原則として投資信託財産総額の50%以下とします。

※インバウンドとは、一般に外から中へ流入することで、外国人旅行者が日本を訪れること等をいいます。



(作成：運用部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■ 本資料は、「ネクスト・ニッポン・オープン」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■ 本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■ 本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目録見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

ネクスト・ニッポン・オープンに関する留意事項
【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。
- ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「信用リスク」があります。
※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
 - 購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.24%(税抜3.0%)
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
 - 運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.6632%（税抜1.54%）
- その他費用・手数料
 - 監査費用：純資産総額×年率0.0108%(税抜0.01%)
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を信託財産でご負担いただけます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただけます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

販売会社

(受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれております。)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○		○
岡三オンライン証券株式会社	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			

<本資料に関するお問合わせ先>
フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)